

平成 30 年 6 月 15 日現在

機関番号：34418

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2013～2017

課題番号：25300005

研究課題名(和文) 中央ユーラシアにおける探検隊考古資料を活用した無形文化遺産の保存伝承研究

研究課題名(英文) Study on preservation and tradition of intangible cultural heritage using exploratory archaeological materials in Central Eurasia

研究代表者

鶴島 三壽 (USHIMA, MITSUHISA)

関西外国語大学・英語国際学部・教授

研究者番号：60515774

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,600,000円

研究成果の概要(和文)：今回の研究は、地域的にはおもに中国西北部とウズベキスタンとした。調査の対象は、ユネスコの無形文化遺産「ムカーム」(中国)、「シャシュマカーム」・「ナウルズ」(ウズベキスタン)である。博物館では考古学及び民俗学資料について調査を行った。楽器製作技術および原材料の問題については、技術者に聞き取りを行った。2017年2月に「シルクロードの楽器作り」と題した写真パネル展を奈良市と東京都台東区で実施した。これにあわせ解説リーフレットも作成した。最終年度には考察論考も含めた調査記録集をまとめた。

研究成果の概要(英文)：In this study, we mainly researched the northwestern part of China and the Republic of Uzbekistan. The subjects of the investigation were “Muqam” (China), “Shashmaqam” and “Navroz” (Uzbekistan), which are UNESCO’s Intangible Cultural Heritage. At the museums, we studied materials of archaeology and folklore. As for the problems on technologies of making musical instruments and their raw materials, we interviewed local instrument makers. We held a photo panel exhibition titled “Making Instruments for Silk Road” in Nara City and Taito Ward in Tokyo in February 2017. At the same time, we made commentary leaflets for the exhibition. We compiled the survey records including considerations for the studies in the final year.

研究分野：考古学、芸能文化史学

キーワード：無形文化遺産 ムカーム シャシュマカーム 楽器製作技術 ナウルズ ユヌス・ラジャビィ

1. 研究開始当初の背景

19世紀末から20世紀初、ヨーロッパ諸国や日本は中央ユーラシアに探検隊を派遣した。その調査報告は考古学的もしくは文化人類学的にはよく取り上げられるが、芸能資料としてはほとんど用いられてこなかった。

そうした状況を踏まえ、代表者は大谷探検隊の橘瑞超の『中亜探検』に注目した。この本には各種の写真とともに、現在の新疆ウイグル自治区ホータンでみた油皿踊の記録がある。これは約100年前のものだが、芸能資料として貴重であると考え、平成22年度に現地調査を実施した。

これにより、当時の記録は芸能伝承の有無、形態の変容などにたいへん有効であることを明らかにした。このときと同じ視点を持ち、これまで振り向かれなかった資料を活用して、ユネスコの無形文化遺産の保存伝承に役立てようとするものである。

2. 研究の目的

各国探検隊の記録などを再検討するに際し、ユネスコの無形文化遺産の保存伝承に役立terるということを前提に作業を行った。

ただし今回の研究は、中央ユーラシアの中でも、地域的には中国西北部地域とウズベキスタンを中心に実施することとした。この地域にはいくつかの無形文化遺産が登録されているが、中でも新疆ウイグル自治区の「ムカーム」、ウズベキスタンの「シャシュ・マカーム」、「ナウルズ」を主な対象とした。これらの無形文化遺産の保存伝承に資するため、各種の調査を実施した。

現地調査の対象については、関係機関と協議を重ね、所期の目的を達成できそうな場所、団体、技術者を選定して調査を実施することとした。

当時の探検隊資料のみならず、各地の博物館、資料館に収蔵される資料も適宜調査して、いろいろな角度からユネスコの無形文化遺産の保存施策に役立てようとするものである。

3. 研究の方法

新疆ウイグル自治区の「ムカーム」については、新疆ウイグル自治区文化庁と、ウズベキスタンの「シャシュ・マカーム」についてはウズベキスタン国立音楽院と登録時および現在の状況、保護施策と今後の方向性などについて意見交換を行った。

その結果、演奏者および演奏団体についてはおおむね概要が把握できているということであったが、そうした演奏に必要な楽器製作およびそこで用いられる用具、原材料については全く把握できていないことが明らかになった。そこで、こうした調査研究の比重を開始前の計画よりも高めることとした。

各国の探検隊が残した資料については、書籍や Web 上に公開されたものの探索にとど

め、当該博物館まで赴いての調査は行っていない。

調査の成果は、論文の作成や学会等での発表はもちろんであるが、その成果を広く社会に還元するため、ワークショップなどとともに、普及啓発冊子などを刊行することも目指した。

4. 研究成果

新疆ウイグルのムカームは、トルディ・アホン(1881~1956)が集成した資料をもとに、現在まで保存継承されてきた。近年、新疆芸術学院で1951年に録音された彼の演奏や関係者のインタビュー資料が発見された。これはムカームの伝承を考える際、変容を知ることができる重要な資料であるので、収録時のことを知る関係者に聞き取り調査を行った。

また、中国の新疆ウイグル自治区博物館、青海省博物館、甘粛省博物館、固原博物館、中国国家博物館などで、考古学および民俗学的な資料について調査を実施した。

ウズベキスタンでは、ウズベキスタン国立歴史博物館、ユヌス・ラジャビイ資料館、コーカンド博物館、フェルガナ博物館などで考古学および民俗学的な資料について調査を実施した。

特にユヌス・ラジャビイ資料館の写真資料については、「シャシュ・マカーム」の演奏年代の特定、経年変化などを考える上で重要な資料であることから、館の了解を得て写真の複写を行った。



複写した写真(1920年撮影)

「ムカーム」と「シャシュ・マカーム」は中央ユーラシアを代表する合奏音楽である。こうした無形文化遺産の保存伝承を考える上で、その基盤を支える楽器製作技術及び用具、原材料の問題は重要である。

中国のウルムチ(烏魯木齊)、グルジャ(伊寧)、カシュガル(喀什)、クムル(哈密)、フフト(呼和浩特)、ウズベキスタンのタシケント、オモンハナ、ボイスン、アンディジャンなどで技術者に対する聞き取り調査を実施し、音楽文化を支える楽器製作技術および用具、原材料の生産と流通について考察した。

こうした特定の調査は両国においても行われていないが、まず何よりもそうしたことが無形文化遺産の保護施策を考える上で基本になるという点においても、今回の成果は

大きなインパクトを与えることができた。

「ナウルーズ」はペルシア語からきており、ナウは「新しい」、ルーズは「日」を意味する。いわば春分の日に当たり、中央ユーラシアからイラン、アフリカまで広く分布している。今回は、ウズベキスタンのタシケント各所でおこなわれている行事の現状と、保存のための国家施策について調査を実施した。

平成25年から28年の調査で撮影した写真をもとにして、平成29年2月に「シルクロードの楽器作り」と題した写真パネル展を実施した。

奈良市と東京都台東区でそれぞれ6日間ずつ開催したところ、多数の来場者があった。期間中は調査メンバーが当番となって適宜展示解説をし、東京会場では楽器を用いたワークショップも行った。また、これにあわせ解説リーフレットも作成した。

最終年度には、考察論考も含めた調査記録集をまとめた。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計6件)

・鶴島 三壽、新疆ウイグル自治区における雑技系芸能の分布と特色、関西外国語大学研究論集、査読有、巻105、155-170、2017
<http://id.nii.ac.jp/1443/00007729/>

・斎藤 完、ウズベキスタン共和国におけるユネスコ無形文化遺産・ナウルーズの実践：国家主催によるナウルーズの祭典、山口大学教育学部研究論叢、査読有、第3部巻66、107-116、2017
<http://petit.lib.yamaguchi-u.ac.jp/G0000006y2j2/metadata/C010066000312>

・鶴島 三壽、中村 真、ウズベキスタンのドゥータル製作、関西外国語大学研究論集、査読有、巻102、131-151、2015
<http://id.nii.ac.jp/1443/00006024/>

・斎藤 完、ウズベキスタン共和国における伝統文化の保護ーユネスコ無形文化遺産・ナウルーズの事例を中心にー、山口大学教育学部研究論集、査読有、巻65-3、79-86、2015
<http://petit.lib.yamaguchi-u.ac.jp/G0000006y2j2/metadata/C010065000307>

・斎藤 完、シャルク・タロナラル(東洋音楽祭)の概要ーウズベキスタン共和国による無形文化遺産保護に関する一断面ー、山口大学教育学部研究論集、査読有、巻65-3、87-92、2015
<http://petit.lib.yamaguchi-u.ac.jp/G0000006y2j2/metadata/C010065000308>

・アブドセミ アブドラフマン、論 nakkara-khana、第11届中日音楽比較国際学術研究会論文集、査読無、巻1、24-29、2015

[学会発表](計6件)

・鶴島 三壽、祇園祭山鉾成立の背景、立命館史学会、2017.12.2、立命館大学(京都府)

・武田 和哉、草原の王朝・契丹ーその社会・文化と仏教の受容ー、大谷大学開放セミナー講座；シリーズ世界の仏教(6)草原の王朝と仏教、2016.10.14、大谷大学(京都府)

・斎藤 完、音楽から読み取れるウズベク民族主義の一側面、2016.9.24、関西楽理研究会168回例会、京都女子大学(京都府)

・アブドセミ アブドラフマン、論 nakkara-khana、2015.11.9、第11届中日音楽比較国際学術研究会、烏魯木齊(中国)

・アブドセミ アブドラフマン、The Issues of the Uyghur Maqam Terminology and its Comparison with the Terminology of Others Mugham/Maqam Schools、2015.3.13、4 International Musicological Symposium "Space of Mugham", パクー(アゼルバイジャン)

・アブドセミ アブドラフマン、植村 幸生、ワイヤー録音によるウイグル古典音楽ムカームの復元研究、2015.2.7、東洋音楽学会東日本支部例会、東京藝術大学(東京都)

[その他]

ホームページ等

<http://www.kansaigaidai.ac.jp/news/detail/?id=517&p=12>

6. 研究組織

(1)研究代表者

鶴島 三壽 (USHIMA, Mitsuhsa)
関西外国語大学・英語国際学部・教授
研究者番号：60515774

(2)研究分担者

斎藤 完 (SAITO, Mitsuru)
山口大学・教育学部・准教授
研究者番号：10403635

武田 和哉 (TAKEDA, Kazuya)
大谷大学・文学部・准教授
研究者番号：90643081

アブドセミ アブドラフマン (Abudusaimi, Abudurehman)

東京藝術大学・音楽学部・非常勤講師
研究者番号：40643432

(3)研究協力者

北川 美穂 (KITAGAWA, Miho)
田中 裕子 (TANAKA, Yuuko)
佐々木 翔太郎 (SASAKI, Shotaro)

中村 真 (NAKAMURA, Makoto)
樋口 昭 (HIGUCHI, Akira)